

## 今後の大学図書館に期待される役割

呑海沙織

筑波大学図書館情報メディア系

donkai@slis.tsukuba.ac.jp

### 1. はじめに

### 2. 大学図書館を取り巻く環境の変化

- ・ 少子高齢化
- ・ グローバル化
- ・ 教育の質的転換の促進
- ・ デジタル化の進展と学術情報流通の変化
- ・ 学生およびその環境の変化
- ・ 教員およびその環境の変化

### 3. 大学図書館に求められる機能・役割

「大学図書館の整備について（審議のまとめ）：変革する大学にあって求められる大学図書館像」（2010年12月，科学技術・学術審議会 学術分科会 研究環境基盤部会 学術情報基盤作業部会）

#### ・ 大学図書館に求められる機能・役割

- ① 学習支援及び教育活動への直接の関与
  - ア. 学習支援
  - イ. 教育活動への直接の関与
- ② 研究活動に即した支援と知の生産への貢献
- ③ コレクション構築と適切なナビゲーション
- ④ 機関・地域等との連携及び国際対応

### 4. 学習／学修支援・教育支援

#### 4.1 教育の質的転換

(1) 第二期教育振興基本計画（2013年6月，対象期間は2013年度から2017年度）では，「自立・協働・創造モデルとしての生涯学習社会の構築」を掲げ，下記4つの教育に関する基本的方向性

- ① 社会を生き抜く力の養成
- ② 未来への飛躍を実現する人材の養成
- ③ 学びのセーフティネットの構築
- ④ 絆（きづな）づくりと活力あるコミュニティの形成

- (2) 第二期教育振興基本計画では、学士教育において、アクティブ・ラーニングや双方向型授業を中心とした教育の質的転換の促進を明示。そのための主な取り組みとして、学生の主体的な学修のベースとなる図書館の機能強化、情報通信技術を活用した双方向型の授業・自修支援などの学修環境整備、MOOCによる講義の配信など。

## 4.2 教授法・学習法の変化

### (1) アクティブ・ラーニング

「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～」(2012年8月、中央教育審議会答申)では、「アクティブ・ラーニング」を「教員による一方的な講義形式の教育とは異なり、学修者の能動的な学修への参加を取り入れた教授・学習法の総称。学修者が能動的に学修することによって、認知的、倫理的、社会的能力、教養、知識、経験を含めた汎用的能力の育成を図る。発見学習、問題解決学習、体験学習、調査学習等が含まれるが、教室内でのグループ・ディスカッション、ディベート、グループ・ワーク等も有効なアクティブ・ラーニングの方法である。」と定義

### (2) 反転授業

- ・ 授業と宿題の役割を「反転」させる授業形態
- ・ 通常は授業中に生徒へ講義を行って知識を伝達し、授業外で既習内容の復習を行い、学んだ知識の定着を促す。
- ・ これに対し、反転授業では自宅で講義ビデオなどのデジタル教材を使って学び、授業に先立って知識の習得を済ませる。そして教室では講義の代わりに、学んだ知識の確認やディスカッション、問題解決学習などの協同学習により、学んだ知識を「使うことで学ぶ」活動を行う。  
(重田勝介「反転授業：ICTによる教育改革の進展」情報管理, 56(10), 2014.1, 677-684)

### (3) 教育学習支援システム

ICTを活用してより効果的な学習をおこなうためのシステム

- ① コンテンツの 配信・管理：授業資料の配布，課題提出
- ② CSCL (Computer Supported Collaborative Learning)：グループワーク，クリッカー
- ③ 受講者管理・学習履歴管理：出席確認，ポートフォリオ

### (4) 学位プログラム化

- ・ 「学位プログラム」とは、大学等において、学生に短期大学士・学士・修士・博士・専門職学位といった学位を取得させるに当たり、当該学位のレベルと分野に応じて達成すべき能力を明示し、それを修得させるように体系的に設計した教育プログラムのこと。

- ・ 学位プログラム制への移行の効果
  - ① 「学位」の種類、名称及び対象とする学問分野等が、知識・能力の証明として国際的にも通用性のあるものに整理される。
  - ② 「教育目標」が、当該学位プログラムの学位の取得のために達成すべき能力として明確化される（ディプロマ・ポリシー）。
  - ③ 「教育課程」が、当該学位プログラムの教育目標の達成のために必要となる教育内容として、体系的かつ組織的に整理される（カリキュラム・ポリシー）。
  - ④ 「入学者選抜方針」が、当該学位プログラムの教育課程の履修が可能となる学生を受け入れるためのものとして整備される（アドミッション・ポリシー）。

（中央教育審議会大学分科会第 74 回配布資料「学位プログラムを中心とした大学制度の再構成について：イメージ案」）

## 5. 研究支援

### (1) 研究者に対する研究活動支援

研究者に対する研究活動支援とは、基本的には学術雑誌、図書、その他研究を進めるうえで必要な情報へのアクセスを確保することである。さらに、研究プロセスそのものに密着し、そこで生み出される多様な情報を組織化し、次の研究活動へと活かせるようなサイクルを形成するための基盤を構築することによって、知の生産に貢献することも必要とされだしている。（「大学図書館の整備について（審議のまとめ）」）

### (2) 研究データマネジメント（Research Data Management: RDM）

- ・ 研究データ共有に関する図書館サービスの総称  
（池内有為「研究データ共有時代における図書館の新たな役割：研究データマネジメントとデータキュレーション」カレントアウェアネス，319，2014.3.20，21-16）
- ・ RDM サービスの要素
  - ① 機関全体の研究データ公開ポリシーやサービスの実施計画をたてること
  - ② データの長期保存と公開を支援すること
  - ③ 研究者へのガイダンスや研修を行うこと

（Jones, Sarah. et al. How to Develop Research Data Management Services - a guide for HEIs. DCC. 2013, 22p. ）

### (3) エンベディッド・サービス

日常の業務において、図書館を離れ、利用者が活動している場から、利用者と活動をともにしつつ提供する情報サービス  
（鎌田均「エンベディッド・ライブラリアン：図書館サービスモデルの米国における動向」カレントアウェアネス，309，2011.9，6-9）